

## 緒 言

二 見 俊 郎\*

整形外科とは「運動器障害に対する機能再建をその主な目的とする」という旨が多く教科書に記載されている。しかしながら臨床の現場においてほとんどの患者さんは、疼痛などの感覚障害を主訴として整形外科外来を受診する。患者さんの多くは少しばかりの運動器障害だけでは決して整形外科を受診しないものであり、これに疼痛が伴ってきて初めて来院する。このように疼痛などの感覚障害の病態解明や治療がわれわれ整形外科医にとって最も重要なテーマであるにもかかわらず、おろそかにされてきた傾向がある。整形外科医が社会に対して今後その存在意義、存在価値を高めるためにも、これらに対する知識および対応(治療を含む)は必須であろう。

前置きが長くなったが、今回は感覚障害の中でも最も治療に難渋する RSD (reflex sympathetic dystrophy) を含む頑固な neuropathic pain の病態と治療を取り上げた。RSD (カウサルギーを含む) に関しては、19 世紀以降その存在は知られていたが、今日でもその病態・治療に関しては十分に解明されているとはいいがたい<sup>1~3)</sup>。また RSD の発生頻度は 2,000 例の手術に 1 例程度の発症、また手術侵襲が低い症例の術後に発生することが多い傾向があるなどから、第一線の整形外科医は対応に苦慮されていると思われる<sup>5)</sup>。この誌上シンポジウムでは、各専門領域の経験豊かな先生方に執筆をご依頼した。その理由は RSD に対する治療は包括的に行うべきであるということが、徐々にではあるがわかってきたからである。すなわち従来 RSD は主として交感神経系の関与が強いといわれてきたが、最近の研究結果からは複合的要素が発症に関与する可能性が高いということ、その結果として治療は包括的に行うべきであるという見解が一般的になってきたからである。このような背景からも 1993 年に国際疼痛学会 (IASP) では、RSD を「CRPS (complex regional pain syndrome)」と呼称することを提案しているようである<sup>4)</sup>。この誌上シンポジウムで「RSD に関してはここまでわかっている、また治療に関してもこのような方法がある、さらには今後この研究を進めるにあたっては、どのあたりに注目すべきか」というあたりが理解してもらえたらと思う。

山本達郎先生からは痛覚伝導機構の立場で実験的 allodynia の作成実験結果から難治性疼痛疾患に対する病態を理解していただけるものと思う。堀内行雄

\* 北里大学東病院整形外科

先生からは上肢外科医の立場から手術的療法の適応と限界についての臨床結果をご報告いただけるものと思う。小川節郎先生からは診断と治療を兼ねた drug challenge test という手段により本例に対して検討を加えていただいた。さらに吉邨善孝先生からは精神科医の立場からご解説いただいた心理的アプローチや薬物療法の結果から、実際の治療に役立てていただけたらと思う。

繰り返しになるが、RSD は現在でも十分に解明されたわけではない。むしろ今後の重要な研究テーマの 1 つである。最近では代替医療などの流行(?)で、特に整形外科医の領分が脅かされている。この意味でも整形外科医は疼痛管理に関して、さらなる関心を持ってほしいところである。この誌上シンポジウムが、そのお役に立てればと祈念する。

なお今回執筆していただいた先生方は、2002 年に東京で開催された第 42 回関東整形災害外科学会でパネラーとしてご発表された先生方である。蛇足ではあるが私がその際の座長を務めた。

## 文 献

- 1) Lankford LL : Reflex sympathetic dystrophy. *In* : Green DP(ed). Operative Hand Surgery, Churchill Livingstone, New York ; pp539-562, 1982
- 2) Kozin F : Reflex sympathetic dystrophy syndrome. *Curr Opin Rheumatol* **6** : 210-216, 1994
- 3) Gibbon JJ, Wilson PR : RSD score ; criteria for the diagnosis of reflex sympathetic dystrophy and causalgia. *Clin J Pain* **8** : 260-263, 1992
- 4) Galer BS, Bruhl S, Harden RN : IASP diagnostic criteria for complex regional pain syndrome : a preliminary empirical validation study. *Clin J Pain* **14** : 48-54, 1998
- 5) 廣谷速人 : 反射性交感神経性ジストロフィー(最近の知見). *整形外科* **54** : 745-753, 2003